

## 看護師の勤務負担へのインセンティブと勤務環境のアメニティに関する 調査研究

宮谷 恵<sup>\*</sup>、入江晶子、小出扶美子、山本智子、市江和子  
聖隷クリストファー大学 看護学部

【はじめに】看護師の勤務改善の方策として勤務負担へのインセンティブ（報奨）と勤務環境のアメニティ（快適さ）に着目し、実態と看護管理者への意識調査により、勤務体制の変更や看護師の増員がなくても可能となる、勤務改善への示唆を得たいと考えた。

【研究方法】全国の病床数 500 床以上の病院の看護管理者を対象に、郵送による質問紙調査を実施した。分析は記述統計とし SPSS. Ver. 19 を用いた。自由記述は質的帰納的分析を行った。

【倫理的配慮】対象者へは匿名性の保証と自由意思による参加である旨を文書で説明した。質問紙は無記名で、郵送による提出をもって同意を得られたとした。本研究は所属大学倫理委員会の承認を得た。

【結果】446 病院に質問紙を配布し 119 病院から返送があり（回収率 26.7%）、有効回答 117 病院の看護管理者を分析対象とした。対象者は 50 歳代以上が 95.7%、看護部長 70.9%であった。施設の概要についての平均は、病床数 657.2 床、看護師総数 574.2 人、平成 25 年度離職率 9.0%・新卒離職率 6.6%であった。夜勤時に 66.7%が仮眠をとる勤務体制であり、その夜勤時間は 14.8 時間、夜勤中の休憩時間は 53.2 分、仮眠時間は 85.8 分、休憩と夜勤の時間の合計は 121.1 分であった。看護師の勤務負担へのインセンティブ実施は 42.7%、うち夜勤への金銭的インセンティブが約 4 割で、8 割以上が勤務改善・離職防止に有効としていた。看護師の勤務環境のアメニティの実施は 29.9%で、うちマッサージ機設置等が約 4 割、飲食物の提供が約 3 割であり、約 5 割が勤務改善・離職防止に有効としていた。仮眠室については 35.9%が休憩室と別で、33.3%が静寂な環境であり、約 9 割が個室かそれに近い状況であった。約 9 割が、寝台はベッドかソファベッドで、かつ寝具は清潔であった。勤務負担へのインセンティブと勤務環境のアメニティの現状の良否は「どちらともいえない」が最多で各 46.2%、39.3%であった。今後改善したい点は勤務負担への金銭的インセンティブ、仮眠・休憩設備の改良等が多かった。看護師の勤務への自由記述は、夜勤可能な人員の減少に関する内容が多かった。

【考察】夜勤時の仮眠の環境は比較的良好であったが、勤務負担へのインセンティブと勤務環境のアメニティの実施率は高いとは言えず、全国の病院全体の実施率の低さが推測される。実施病院では勤務改善・離職防止に有効としているため、未実施病院への啓発が必要と考える。

### 論文発表の状況

2015 年度第 19 回日本看護管理学会年次大会に発表予定であり、発表抄録をエントリー中